



# ニッポン名城 技めぐり

城から学べる  
“Construction”

Vol.05

豊臣政権時代

徳川政権時代(慶長年間)

徳川政権時代(元和年間以降)

幕末

関ヶ原の戦い以降、大名の配置換えを機に起きた“築城ブーム”で城造りの技術が飛躍的に向上

# 松江城

所在地 島根県松江市

築城年 1607(慶長12)年

築城主 堀尾吉晴

主な改修者 京極忠高

保存状態 明治時代の廃城令によりほとんどの建造物が解体・撤去されたが、天守は難を逃れ、現存天守の一つとして保存されている。2015(平成27)年、国宝に指定。

## 築城盛況期に乗り遅れた、「四重」の名城

松江城を築城したのは、関ヶ原の戦いで東軍に属し、戦後に松江藩を与えられた堀尾吉晴(家督は息子の忠氏に譲っていたが、実質二元体制だったといわれる)。当初はかつて尼子氏の居城だった月山富田城に入城して改修を試みたが、そのあまりの巨大さゆえに土木工事が進捗せず、改修をあきらめて新たに築城したのが松江城である。関ヶ原の戦い直後から築城に着手した他の西日本の城に比べて着工が数年遅れたため、家格の低さを慮って五重の天守を建てることができず、「限りなく五重に近い外観の四重天守」という特殊な構造を持つ。建設資材も不足していたため、柱には複数の木材を組み合わせた「接柱(はぎばしら)」が用いられ、この技術が先代の出雲大社本殿や東大寺大仏殿の再建にも活用された。



籠城戦を見すえ、天守内部に設けられた井戸(現存天守では唯一)。堀尾吉晴は、もともと居城・浜松城でも天守内に井戸を備えており、籠城戦への意識が高かった。(提供:三浦正幸教授)

続きは動画をチェック!



日本の建築史を専門とする広島大学名誉教授・三浦正幸教授の解説動画をこちらからご覧いただけます。

三浦正幸教授…東京大学工学部建築学科卒。建築学者、工学博士、一級建築士。NHK大河ドラマの建築者証担当、城郭や社寺建築に関する著書多数。

